

風にWhistle

負け惜しみのヘラズ口・わるくちむだばなし編 2005/6/30（木）

いつまでも過ぎた物事後を引きずってあれこれぶつぶつ言う人を「後腐れのある悪い人だな」と、よく聞く。

人と人とのつき合いでは、雑談や噂話は潤滑油のような役割を果たすこともある。しかし、本題そっちのけにして、ほかにしなければならないことを無視していつ終わるかわからない悪口無駄話をされたのでは付き合いきれない。

泡沫議員のめくれどめくれど繰り返される妄言は、負けたことを素直に認めず、強情を張って相手の欠点や負けた理由をくどくど歪曲して負け惜しみのヘラズ口になっている。

わたしが会派政和会を眼の敵にしている。それとも人を陥れるためのひん曲がった嫉妬心がそうさせているのか。その執着はとにかく異常だと感じているのは、わたしだけではない。当のご本人は気はついていないが気がつかないふりをしている。



ぎぼうしの花

行政組織は一体となって本庁に配置すべき 2005/6/29（水）

きょう 29 日、能代市議会全員協議会は、第 8 回能代市二ツ井町合併協議会に報告する新市の事務組織・機構等について当局の説明を受けた。

組織は市長部局 7 部一室 1 総合支所 32 課室（うち課内室・分室 4）と、ほかに議決機関である議会・議会事務局、行政委員会の選挙管理委員会、農業委員会、教育委員会、監査委員の各事務局である。

環境首都を目指す新市の特色として設置した市長部局 7 部のうち環境部を、支所となる二ツ井町役場に配置し、能代市には環境部衛生課つまりごみに関する窓口のみの分室を設けるという案である。二ツ井町には、きみまち坂公園等観光資源もある。自転車の街づくりなど環境に配慮した政策推進が自転車操業並みではあるが、街づくり環境への取り組みはみとめる。

しかしである。未設置の二ツ井町とくらべ能代市は環境保全条例、環境基本計画等をす

でに設置して取り組んでいる先進都市である。

能代港



地下水湧出のため地盤が崩れシート破損事故

を起こした能代市日影沢一般廃棄物最終処分場（95 / 8 / 29）

これまで二ツ井町の一般廃棄物処理は鷹巣町と組しており、30 キロ遠距離に環境部を置いて合併に伴う能代市一般廃棄物最終処分場の管理運営等は、どうなるのか。

能代市が商工港湾課内に配置している能代港、資源リサイクルや起業化との関連する商業振興部のほか、農林水産振興との関連、廃棄物最終処分場等の関連、さらに、ラムサール条約登録を目指そうとしている小友沼の関連など等。環境部とは切り離せない数え切れない関連する部局・課がある。

農業委員会然りである。農地面積は能代市 69 キロヘクタールに対して二ツ井町 18 キロヘクタール。人口 5 万人の農家戸数能代 3439 戸に対し二ツ井町は人口 1 万人のうち農家戸数 1152 戸である。農地法第 3 条、4 条、5 条の用地集積関連の審査件数は能代約 400 を超える件数に比べ二ツ井約 170 件数である。「窓口業務の相談を含め、調整が必要な組織は利用者の利便性を尊重して頻度の高い場所に置くべきではないか」と、竹内議員の発言に私もこの 2 年間の農業委員の経験を踏まえて同じく主張した。

農家の農地関係の登記はその都度法的な届出をしなければならない。法務局は能代本庁周辺にある。

議会事務局の配置を「基本的に能代市」としている。それなら議会開催ごとに市長部局である環境部がそのつど、資料を持って二ツ井町から登場するのか。物理的に無理がある。

私は、農業委員会も合わせ、市長部局 7 部局が組織一体となって本庁に置くべきである。さもなくば窓口業務などに支障が出ること必然明白であり、市民に与える影響も重大であると主張し、組織機構に再検討を要望した。

「各部が連携を取っていれば、窓口業務は大丈夫だ」と、当局は答弁した。が、現に本庁能代市役所と向能代や常盤など各出張所との連携はどうか。これまで週二回の伝達業務は週一回になり、住民としては迷惑至極になっているのではないだろうか。

合併後の二ツ井町役場に「職員 100 人確保」の心情を理解もするが、二ツ井町長に寄せられた組織機構は、合併の本質「究極の行財政改革」に逆行している。と、また市民に糾

弾されることのないよう、豊沢市長の舵取りを見守りたい。私の意見、要望はきょうの会議で言いましたから。

住民の不安解消に努める県の方針を歓迎する 2005/6/29（水）

夕方近く秋田県政記者クラブ加盟の報道機関から電話がはいった。

それぞれの議員が角度を変えて質問が出来る「総括質疑」も当局の緊張感と質疑応答の内容が充実して結構いい印象を受けているようだ。

秋田県議会の「総括質疑」が年 1 回から議会開催ごと毎行われるようになった契機と経緯の一部始終を傍聴して知っている私は、「暫時休憩」を挟んでひどかったあのころの秋田県議会の様子と、議会運営委員長だったあの議員の取り巻き連中を思い出してしまった。



その「総括質疑」で能代産廃問題が取り上げられ、県は第一段階の「非破壊調査」で廃棄物が確認できなかった場合でも住民側が不適切な処分が最も疑わしいと指摘する処分場でのボーリング、試掘調査を実施する方針を明らかにした。

住民の不安解消に努める県の考えは明日の新聞の記事になるだろうが、すぐ各住民団体に周知した。

「あど、もう少し、がんばっぺな」と、返事が来た。

梅雨入り 2005/6/28（火）

しばらく続いていた好天気から昨日は一転して終日強い雨が降り続いて梅雨の季節に入った。雨の後の木々の緑が鮮やかになるのはうれしいが、土砂災害、底地の浸水、河川の氾濫など、新潟地方は、今度も大雨による被害が続出している。

昨年 9 月 30 日に起きた台風の影響で浅内財産区有地「南沢」の法面が崩れ、危険防止対策も取られず放置状態のままになっている。

強い雨で、またまた崩れると能代産業廃棄物処理センターからの滲出水を秋田県が管理している集水対策に影響を与える。

6 月 6 日、第 5 回能代産業廃棄物処理センター環境対策協議会で指摘され、6 月議会でも 10 数年続いた裁判の経験は生かされていないと、財産管理のあり方を質されている。



浅内財産区管理会及び財産区管理者能代市長は、秋田県環境整備課と話し合いはどうしたのだろうか。頭を垂れて対策をお願いしてくれたでしょうか。まあだ、やってねがったな。

大型店出店の陳情に、決断するとき 2005/6/27（月）

昨年 9 月定例会から 9 ヶ月。付託された環境産業委員会は継続審査となっていた大型店舗進出賛成の陳情を採択し、大型店舗進出反対の陳情を不採択とした。わたしは、双方の陳情は議会採択にはなじまないと継続審査で繰り返し態度を留保してきたが、ここにきて結論を持ち越して曖昧にはできなかった。大型店舗進出賛成の陳情を採択し、大型店舗進出反対の陳情は不採択にした。

大型店進出を容認した議員はまるで罪悪人のように言われる人もいるが、わたしには 3 度目の審査で結果を出した理由がある。

市長は、あらゆる手段を講じて、訴訟問題となっても争うことがあっても、大型店進出は阻止するとしてきた。農業振興区域除外申請を拒むことがその手段だともいつてきた。市長は、農業振興区域除外に関わる秋田県と喧嘩をする気だ。能代市は、秋田県が農振法解除後の農地転用許可に関わる仕事があるだけである。これを盾に大型店の阻止は出来ない。

加えて農業者の立場になって考えてみると、農業従事者の高齢化、労働力不足、後継者不足などの問題を抱え、一農家への米の割り当て拋出数量は減反政策とまったく同じ 3 年に一度は米農業収入がないと言っていいくらいである。ましてや低価格の現状の経済的負担は、農家にとってはつねに死活と背中合わせである。国土交通省の土地買い手価格は破格値だったろう。それを満喫した農家もある。大手資本が農地買い上げか、借り上げかは分からないが農家の経済事情を考慮しても魅力があるものと理解する。

農振法解除、農地転用して田畑を手元から離すことは農家にとっても苦渋の選択なのだ。

また豊沢市長は、長年中田満議員を通して議会質問をしてきた。能代の駅は、本線のある「東能代駅」か、五能線の「能代駅」かと。

遠くから訪ねてきたわたしの友人は、特急で「東能代駅」に降りてわたしの迎えを待ちながら、周辺の閑散とした何も無いところに驚き不安な思いで待っていたと、その心境を語っていた。



写真は、東インターチェンジ付近（05/6/12）

わたしは、農業は能代（秋田県）の基幹産業であるにもかかわらず、写真にある広い田園を道路でまっ二つに分断する環境負荷型公共事業計画が示された時点で、すでにこのエリアの東能代駅を含めたインフラ整備、施設整備などに対して将来計画の構想を持たなければならなかったと考えるのである。

わたしだって農地に大型店は反対である。収支のバランスが崩れるや否や中央資本の大型店は持続可能な開発行為に水を差すことは何とも考えない。すたこらさっさと引き上げるからだ。でも、もう遅い。道路建設を望んだのは誰か。いまその道路が出来てから、ここ、そこ周辺地域に商業展開が張り付かないのは、これまた魅力がない街と判子を押しされたようなことになりかねないのではないか。



ご覧のとおり、まず先陣を切って国土交通省が川反町から東能代地区に移転している。

おそらく、能代警察署だって現在地建てかえ方針から東能代地区に見直しがあるかも。

合併する二ツ井町の直線上につながる東部地区をどうするのか、市長の考え方を披露することはなかった。

また、出店反対だ！と、いうものの、中心市街地をどうするのか。ここでも市長の考え方を披露することはなかった。

たしかに郊外に大手の大型店が進出してくることは、中心市街地が空洞化する可能性はある。学校の統合を見ても分かるとおり、少子高齢化で中心市街地の一人暮らしや空き家、空き店舗が増えていることは事実である。市街地には、がんばっている店も多い。が、一方で若者たちは、「欲しいものは秋田へ」と、流れる。どうしたら、この若者たちの足を食い止めて、地域活性化ができるのか。

一方、「中心市街地のくらしを守る会」から提出されたおよそ 15,000 人署名簿を添付した大型店舗進出反対の陳情がある。市長は、15,000 人が大型店出店に反対していると胸を張るが、行政協力員を使って各自治会ごと回覧して集めた署名は、その署名の数のすべてではないとしても市長の公約実現に巻き込まれているのではないかと、いささか信憑性に疑問が残るのである。

中心市街地の署名は如何ほどか 15,000 人署名簿の分析をお願いしたいものだ。もしかして浅内方面、常盤方面が多いかもしれない。

市長は向能代方面の住民の心が分かるだろうか。組合病院が出来た都市整備の経緯を思う住民は、これで向能代、落合地区はますます都市整備が遅れることを懸念しながら、回ってきた署名簿に仕方なく署名したという声も聴くではないですか。

口角に泡を飛ばして街づくりを訴えた昔の豊沢有兄は、市長になって、「住民が、いつ、どこで、どう暮らそうと安心してすめる街づくりをめざしたい」と、いうからにはもっと大きな視点で街づくりを考えることも必要になってきたのではないか。

加えて中心市街地をコンパクトな街にして活性化を図るにはどうやって創り上げるのか。も、考えなければならない。

あっちに不利、こっちに不利している場合ではない。豊沢頭脳労働の見せ所に期待する。



風車の方向は、風が決める

いまが旬！です。風の松原 2005/6/25（土）



昨日、風の松原内を散策した。かおり風景など、百選称号6冠を堅持するだけあって、風の松原はいつでも旬ですが、特に雨上がりの木々のみどりは心さわやかにしてくれる。いまが旬！です。

「10 数メートル以上に成長したニセアカシアが密集して、松の木の栄養分に、影響を与えているのではないかと。調査して関係機関にお願いして、先人が残してくれた松の木（黒松天然木）を保全するのはどうだろうか。」と、風の松原のニセアカシア対策を求めた。

市長は、風の松原を管理する米代西部森林管理署に伺ったところと前置きして、「風の松原を健全な状態で維持するため、松原全体の地帯区分を行い、育成途上にある森林（若い林）現状を維持すべき森林（混交林、広葉樹林を含む）保健休養機能の発揮が期待されている区域（レクリエーション等の保健保養の場）の管理の方法が検討されている。

ニセアカシアの取り扱いについては、黒松の樹勢阻害要因となっているニセアカシアを除去する方法、もう一つは、広葉樹のみで形成されている区域については場合によってはニセアカシアを除去する方法が考えられると伺ったが、地帯区分の線引きが確定しておられないため、現時点では明確に回答できないという見解であった。」と、答弁した。

すぐに「どうであったですか？」と問い合わせがきた。能代市の姿勢が分かった住民団体は、すぐに東北森林管理局や関係機関に自ら行動を展開した。

風の松原のニセアカシア対策にこうして目で見て安心するまで、平成 13 年 12 月議会の一般質問から 3 年が経っていた。

いま、伐倒処理した後の伐根や根の途中から発芽する芽かき作業を人海戦術で除去しようとしている。

産廃問題は、まだ解決途上にあるがある程度の方向性が見えてきて、わたしにもさまざまな方面に協力出来る環境が整いつつある。

そのことがなによりもうれしい。



伐根から芽を出したニセアカシアは、まだまだある。

今日は、何の日？ 2005/6/24（金）

美空ひばりの命日で 17 回忌だといっている。「赤いスイートピー」の松田聖子の結婚記念日だといっている。

夜になって、孫が「お誕生日おめでとう！」と、かわいいお手紙をプレゼントしてくれた。「鉄棒の前上がりが出来る！こんどは逆上がりに挑戦！」と、自慢している。元気が何よりのプレゼント。

ばあさんいくつになる？と聞くから、ついつい 30！といってしまった。「わーい、わーい 30 だ」といって、孫にからかわれ、さばの読みすぎだ！と娘に睨まれ。

歳は「とっては捨てる」でここまで来たが、左肩が上がらない後ろにまわらない加齢に伴う御不自由肩になってストレスを抱えている。さば年生まれはいま、とてもつらい。



お気に入りのウィングラス風の大きなガラスの花瓶に生けた庭に咲くバラと雑草に癒される。

「戦争はいやだ」 2005/6/23（木）

恒久平和を祈る戦後 60 年の「慰霊の日」を迎えた沖縄。

式典で「戦争はいやだ！」と朗読する少年の言葉が消えぬうちに、イラク南部サマワで、陸上自衛隊の車列が通過した際に爆発が起きたというニュースが飛び込んできた。

サマワは、非戦闘区域と小泉首相は言うが、一步間違えば自衛隊員に死傷者が出かねない事件だ。

最近では、一般民間人が狙われた従来の事件とは事情が違うが、英国系警備会社に属し、バグダットから米軍基地に機材を運んだ帰りに襲われて若い命を失った斉藤明彦さんの事件がある。今度の事件もアメリカの朋友を標的に狙われたとすれば。

イラク情勢は一向に改善の兆しがないのだろうか。戦争はいやだ！

父の遺言を破り 2005/6/22 (水)

亡くなった父は生前よく言っていた。相手が声高になったときこそ、小聲で話せと。

昨日のことである。議長が議会閉会を告げた。立ち上がった小林議員が、頬を高潮させ口を歪めて「原田さん、あんだや！ 市長提案に修正を出すとは何だが！ おれの質疑にまともに答える！」と、きた。

わたしは、「意見はいろいろあるでしょうが」といった。「あんだに、言いてこといっぱいある！」と、ごちゃごちゃぶつぶつを続ける不遜な小林議員に我慢が出来なかった。

「議会はまだ終わっている。小林さんこそ何を言いたいのか！ どうしたのか？」と、ついつい大きな声を出してわたしは父の遺言を破ってしまった。

産廃問題を追及して、それは想像を絶するいやなことはたくさん経験したが、小林議員に自分こそ正しい、偉いと侮辱した屈辱を受ける謂れはない。

畠議員に「能力がない」と面と向かって言われてもただひたすら我慢して議会を乗り切ったと伊藤議員が言っていた。

この日の夜偶然、某スナックに五人組連合と連れ立った小林議員が入ってきた。「先ほどはゴメンナサイ、お許しを」と、大きな体から搾り出した小さな声を聞いた。

これで二度目だ。あの正直で実直だと思っていた日本共産党小林議員はどこへ行ってしまったか。連合 5 人組の補完勢力になってしまっている。菊池議員と背中合わせの姿を見るとき残念に思うのはわたしだけではない。議会に日本共産党の考え方は必要だとわたしはエールを送ってきた。特効薬はないものか、自分を大切にしてほしい。



どくだみの花。

日かげに生え、一種の臭いがある。

干して煎じて飲む民間薬用にして使われる。

市長にないもの。押しても駄目なら引いてみる 2005/6/21 (火)

6月補正で新規提出議案になった循環型社会形成事業費の全額5,236千円が環境産業委員会で否決となっていた。

市長には、付託する前に循環型社会形成事業費について取り下げたり、減額したりして

再提案することが出来たはずだ。あるいは常任委員会が予算可決後、執行権を一時預かりという方法もあったはずだ。

しかし、市長はそれらに応じたら市長の「従命利君」が関連している会社の補完事業だといわれている風評を認めることになる、それを恐れていた。

このままでは、本会議での決議で循環型社会形成事業費の全額 5,236 千円だけが否決されるのではなく、提出予算の歳入、歳出総額が否決されてしまう可能性は十分にある。

たまたま、今日は 21 日で、議決前であるから職員の給料は支払われることになるが、予算の総額が否決されることは可決されるまで、そうはいかないのである。

歳入、歳出予算総額の否決は市民の生活に重大な影響を与えるばかりか、市政運営にも影響を与えることになることを、どれくらい市長は考えただろうか。あの七市町村合併が壊れた市長の意固地さはここでも丸見えだった。それとも、どうせ議会が折れるだろうと、高をくくって相手（議会）の出方を待っていたのだろうか。その方が、自分の責任というより、議会の責任になると。

この事業の内容の一つに汚泥等活用調査委託がある。2005/6/17（金）のこのコーナーで当局の説明に納得するまでわたしはこの予算に限り認められないことを主張した。

わたしと、竹内議員、今野議員の 3 人は、市長の責任逃れの手に乗ったわけではないが予算に対する修正（案）を提出した。

3 人を代表してわたしは、循環型社会形成の必要は認めた上で、汚泥等活用調査の一つである「し尿」は、市民の暮らしといちばん密接な関係にあり、能代市が取り組んでいる終末処理場の最終汚泥の活用と同様、「地域の汚泥」として、いろいろ議論され、検討し、積極的に取り組むことを否定するものではない。しかし「し尿」処理に係ることについては事業の提案動機が不透明な 6 項目の疑問点を述べながら能代山本広域市町村圏組合事業であることなども考慮して、もっと、慎重に取り組むべきではないか。しかしながら、本予算のすべてを否決することは、市民の生活及び市政運営に重大な影響を与えることになるから、循環型社会形成事業費 5,236,000 円のうち、汚泥等活用調査費の委託料 2,310,000 円を減額し、同金額を予備費に追加するよう、補正予算の修正を求めたのである。

委託料 2,310,000 円を減額だけにすると、本予算の歳入、歳出の総額が変わることになる。総額を変えずに、市民の生活及び当局の市政運営に重大な影響を与えることのない方法として予備費に追加したものであると、説明した。

信太、畠、小林 3 議員が、私の説明に対する質疑を始めた。説明をよく聞いていないのが分かる。修正説明の能代山本市町村圏組合の「し尿」汚泥ではなく、盛んに下水道汚泥の質疑が続行し、市長提案を否決した者に対する恨みつらみを込めた意見を述べるなどに終始した。

菊池議員の「委託料 2,310,000 円を減額し、そのまま、予備費に残す理由は何か」だけはまともな質疑となっていた。

16 対 9 で、修正（案）は可決した。「従命利君」に着膨れした豊沢市長の首の皮がつな

がった。

豊沢与党といわれる五人組連合 + アルファの勉強不足は歪めない。自分たちこそ、正しい、偉いと勘違いしている市長与党「従命利君」に、我々のスタンスがいかに正当であることを認めさせた 6 月議会であった。



露草

古くから、藍色の可憐な花のこの草で布を摺り染めにする。

ホタルグサともいう。

背筋が凍りつき 2005/6/20 (月)

怨念が込められたうなり節になっていた。「きちがい！」と、背中から浴びせられて思わず足が震えてすくんだ。

お昼時間になると私は、わたしが会派室から食堂を往復して食事などを運んで「減量」に努めるのも会期中の日課にしている。

去る 6 月 15 日、の、できごとである。12 時 30 分から開催した能代市議会の議員政治倫理審査会は、委員長、副委員長を互選した後だった。

この日も午後の会議再開準備のため、議会北側廊下を行き来して「減量」に努めていたわたしは、信太氏が議会本会議場の議長席 4 番に座っている見知らぬ人と懇談しているのを見た。昼食等の休憩中といえども本会議開催中のことであり、書類などが机の中に上においてある。

私以外の他の議員や、議会関係の職員もその光景を見て驚いていた。

12 時 50 分頃だったろうか、お皿を食堂に返して議会北側廊下にさしかかるとき、たずねひとを前にして対面方向から信太氏が歩いてくる。眼が狐眼になって頬から耳から赤く高潮しているのがわかる。

わたしは軽く会釈をした。とたんに「馬鹿みたい！」と、つんと顔を上にしてわたしの横を一步前に出た いきちがいすれちがう 「きちがい！」と、叫んだ。

わたしは、一瞬背筋が凍りついたが、「きちがいってどういうこと？」と、冷静に言い返した。が、たずね人の後ろをせかして正面玄関の方向へ廊下を曲がって信太氏は消えた。

告げ口をしたとでも思ったのだろうか。信太氏は規則破りを棚に上げて、わたしにむかって「馬鹿みたい！」「きちがい！」と、叫んだのである。

国も地方議会も同じであるが、規則によって議長の許可なく誰でも彼でもみだりに議場への出入りは禁止になっている。議会傍聴でさえ、住所氏名を記入してからその席に着くことになっている。ましてや、議場内に入れて懇談するとは。

議長は施設管理上の問題から、信太氏と組した 5 人組畠山会長を呼んで注意した。

いきちがいに、きちがいにきちがい！ と いわれ、たてる腹もなし

すずらの花

向かい合う二枚の思いがけず大きな葉の影に十センチたらずの花茎に愛らしい花が着く。

すずらの花は、特に根っこは有毒で、牛や馬は上手に避けて食べない。



植えっぱなし 2005/6/19 (日)

植樹祭で植えたハマナスの花は、まったく手入れが出来ていない。植えっぱなし、これはいけない。



草ぼうぼうのハマナスロード



手入れが行きとどき可憐に花咲く税務署前

テスト用紙にでっかい雪だるま 2005/6/18 (土)

秋田市内の高校で答案用紙が紛失し、その対応に追われているテレビニュースが入っている。わたしにも高校 3 年生のときに経験がある。国語 (乙) つまり「古典」の中間試験の採点後の答案用紙を文芸部室に入れておいて紛失したという。このままでは、通信簿が困るといって先生は再試験を提案した。

そんなことありー！ けばったい化粧先生の「だらしなさ」にみんなが怒った。白紙を出して抗議することになっていた。

紛失したテストの成績は高得点をとっていたと、先生から聞き、有頂天のその気になったわたしは、堂々、渡されたテスト用紙に「どでっかい雪だるま」を描いて、「手も足も出ません」とつけ加えて書いて出した。

後でわかったが、「約束」を守ったのはわたしだけだった。期末試験にも反抗しておかげで夏休みなのに追試験が待っていた。試合があるのに部活を休む格好も悪く。

この予算に限り認められない 2005/6/17 (金)

ごみゼロ資源循環型社会の構築を目指し、環境保全・資源循環型社会への転換を！ と、わたしは 93 年 12 月に栃木県で開催された廃棄物処分場問題全国ネットワーク結成大会から主張してきた。国も地方自治体もこれらの取り組みは 20 年二昔遅い。



6 月補正で新規提出議案になった循環型社会形成事業に審議が続いているのだろう。午後 4 時ごろ、まだ、会議が続いていた。

この事業の内容の一つに汚泥等活用調査委託がある。付託説明によれば、終末処理場から排出される下水道汚泥と、中央衛生処理場から排出されるし尿汚泥の堆肥化と利活用調査を委託するのだという。汚泥の堆肥化はこれまでも調査研究を実施してきている。検証はどうしたか。

終末処理場下水道汚泥は、最終処分は産業廃棄物として処理される。市の事業である。



一方、し尿処理は、中央衛生処理場で処理され一般廃棄物として日陰沢最終処分場に処分されるが、能代山本広域市町村圏組合事業である。





広域事業をなぜ、能代市が予算化して事業検討をしなければならないのか。広域組合の考え方も分からない。

そして、更なる大きな問題は、古いし尿処理施設に貯まったまま処理できない大量、生々、どろりの成分不安定化した「し尿」があるということだ。おかげで、解体もままにならぬということになっている。ここだけで事業費は数億円になるのだ。群がっているものもある。

循環型社会形成の必要は認めるが、事業の提案動機が不透明で市民からかなりのブーイングがある。

当局の説明に納得するまでわたしはこの予算に限り認められない。

「ただ、押しただけですから」 2005/6/16（木）

2004 年通常国会で成立した年金関連法案について、自動的に保険料アップと給付ダウンが組み込まれてしまった年金制度、保険料と自己負担が引き上げられたばかりの医療保険、保険料を負担しているのに障害者や難病患者などが利用できない介護保険など社会保険の基盤が大きく揺らいでいるから「基礎年金制度の改革を始め各種年金の一元化問題を含む社会保障制度全般の一体的見直しを行い、早急に抜本改革を実施するよう、関係行政庁に対し、意見書を提出願いたい」という、ある団体からの請願書があった。

紹介議員は、畠山一男議員となっている。

年金制度、医療保険、介護保険のどこをどう抜本改革するのか、紹介議員に説明を求めた。驚いた。「請願者は上部から下部までの団体組織であり、いわゆるトップダウンで請願が来たもので、詳しく内容はわからない。いわゆるめくら判を押しただけでもないが、ただ、依頼があって押しただけでありまして、この文章に修正があって、それで採択できるならそうしていただきたい。医療から年金を網羅して考えてください。」と、いう内容だった。

これが労働組合代表で選挙の度に上位当選している論客かと、説明を求められいささか不愉快だといわんばかりの顔した開き直りに、しこったまがっかりした。

わたしが会派は、国の動向をもう少し見極める必要があるとして継続審査にした。

健康寿命と平均寿命のちがい 2005/6/15 (水)

男女の差別はいけませんが、生きる寿命の男女の区別である。

健康寿命 男 71.4 女 75.8

健康で明るく元気に生活し、実り豊かで満足できる生涯、つまり痴呆や寝たきりにならない状態で生活できる男女の平均健康寿命は 73.6 である。

それこそ、生涯夫婦、男女が共同 = 協働してお互いを共育する寿命である。



昼朝顔のはな

平均寿命 男 78.32 女 85.23 寝たり起きたり一生を終える男女の平均寿命は 81.77 である。

母は間もなく 93 歳になる。まったく寝たきりではないが痴呆を患っている。父が亡くなって今年で 23 回忌。

親不孝な私はあの世の父に時々小声で語りかける。「爺さん、いつ、ばあさんを迎えに来る？」すると「俺も山仕事が忙しいから、まあだ時間はかかるな」と、返事が来る。「まあだ時間はかかるって、いつまでよ！」というのと、「あれは長生きの巻き（血筋）だから、死ぬまで長生きすべな」「あいー んだが！」と、月命日のりんをチンとたたく。

そうだ、父は暗くなって自分の手が見えなくなるまで働いていたんだ。今もあの世で山を楽しんでいるらしい。「家のことは何もやらない！」と、母は父と元気な喧嘩をしていた。父が亡くなり独りになって、母から「ぴんぴんころり」はなくなってしまった。

「夫婦喧嘩」も元気に生きる源であったのだ。



02 / 7 / 28 「田んぼを見たい」と言いだして 。

団塊の世代こそ男女共同参画を 2005/6/14 (火)

時にこの六月を秋田県は「男女共同参画推進月間」と定めており、2 日にはのしろまちづくりグループ「ニューウェーブ」が、活動の功績をたたえる「ハーモニー賞」を受賞した。女性が力を発揮できる活動がしっかりできている男女共同参画の先駆者に、更に今後も活躍を期待したいものである。

ところで、能代市は 4 月 1 日現在の女性の公職参画状況を公表した。市議会を除く市設置の 66 ある委員会、審議会に女性が占める割合は 25.5% である。参画率は「これだけ男女共同参画社会を推進しています」と、云っている様であるが、生涯教育、福祉や保健、市民活動の分野に偏っている。

毎度、公表する女性の公職参画状況は、私は単にこれをもって「参画率の指標」のように扱っているだけではないかと思っている。私が求めている男女共同参画社会は、単に女性が参画率を高めることだけではなく、もっと、いろいろな人たちが、様々な形で、身近なところから取り組むところにある。

意識や社会の仕組みは直ぐには変わらないと思うが、反面、男女共同参画は時代の要請でもあり、今日私は、団塊の世代の中高年者を対象とした男女共同参画の促進は、環境、共育、命をつなぐ男女の協働参画を地道に考えてみた。

周辺を見てください。或いはご自分の胸に手を当ててみてください。世代によって認識、考え方にばらつきがあるとは思いますが、妻が不在の際、ご自分で身の回りのことをできる夫がどれだけいるでしょうか。最近の若い夫婦の家庭内の役割分担などを見ているとそうではないようだが、中高年の夫婦については普段から全く妻任せの夫が多く、そのために問題を抱えている女性の話を耳にすることが多い。

「男は仕事、女は家庭」という意識を変化しない男性、女性に特効薬はないが、それでも夫婦ともに助け合って生活していかなければならない時代である。将来の介護の不安、さらには不安などから来る暴言暴力は DV(ドメスティック・バイオレンス)につながることも懸念される。

そこで、わたしは男女が共同＝協働して共育するにはまだ意識が低い団塊の世代中高年を対象とした男女共同参画の啓発、講座等の必要があるのではないかと思う。

男性向けの料理教室などはよくあるが、例えば、健康促進に関する講座で、女性の失禁、男性の前立腺肥大など、あまり声を出して人に言えない悩みを図るなど、中高年夫婦が参加できる事業に取り組んで、より一層男女参画の理解が得られお互いを尊重することになるのではないかと考えるのである。

これに対して市長はこう、答えた。「生活時術向上のための事業のほか、加齢に伴って現れる男女特有の症状をお互いに理解し助け合って暮らしていくための取り組みなど、夫婦で気軽に参加できる事業の充実に努める」と。

「私は尿失禁していないから、男女共同参画はできない」と言って、馬鹿の高笑いしてい

る泡沫議員が、過去にも「福祉は男女共同参画の対象にはならない」と、市長に口どいていた。間違っている。

女性の社会進出は、老若男女問わず、まず心身ともに健康であることから始まる。

各地域地区には健康推進委員があり、中高年男女、夫婦が気軽に参加できる企画を考えよう！

♪アカシアの雨にうたれて ♪ 西田佐知子の歌に育った団塊の世代は、これから「ごまん」と溢れるのだ。



アカシアの花

公共事業をどうするか 2005/6/12 (日)

どのような施設や道路をどのような場所に、いつまでに、どの程度の誰の費用でつくるのか。当然、一応の青写真があるのだろう。

それぞれの施設や道路が勝手につくられたのでは、必要なところに必要なものが出来ない恐れがあるし、無駄な投資が行われる不安もある。

新幹線、道路、ダム、護岸、港湾、土地改良。国、地方合わせてはるか500兆円をはるかに超える債務を重ねてなお、見直されるどころか、さらに急膨張続けてきた公共事業である。



昨日11日、私は、第18回日本海夕日ラインシンポジウム in 米代へ、政治評論家森田実氏の基調講演「公共事業必要論」を聴きにいった。

来賓で出席した衆議院議員野呂田芳成氏の公共事業に対する功績をたたえ、「物事の判断が感情的になってきており、正論を言う人をけなし、間違っている人をほめる。不当なる非難を認めることは出来ない。」と、公共事業不要論は間違いであると批判した。

「国家の実力は地方に存する」という言葉を引き合いに、「地域の活性化なくして日本の再生はない」との考えも述べられ、「内需を拡大しないといけない。道路や港を整備すべきである。」と、公共事業の必要を力説していた。地方の財政事情を分かったの発言だろうか。財源はどのようにするのかについては、聞き漏らししかどうかメモが途切れてしまっていた。おそらく眠ってしまったのだろう。

東北地方高速道路の整備状況を示す立派なパンフレットが入っていた。これに、財源にかかわる部分を明記してくれたら、もっと、道路に対する納税者の理解が得られたのではないだろうか。

農業は秋田県の基幹産業であるにもかかわらず、写真にある広い田園を道路でまっ二つに分断する環境負荷型公共事業に、わたしは疑問を持っている。



日本海沿岸東北自動車道 東能代付近（05/6/12）

意気込み 2005/6/10（金）

私たちは6日に開催した第5回能代産業廃棄物処理センター環境対策協議会で、掘削調査の事前調査になるそのスケジュールが把握できるよう、工程表の提出を県にお願いしていたところ、「出来立てのほやほや」を午後の4時が過ぎて、わざわざ県の職員二人が能代市と住民団体に届けてくれた。

調査側線の間伐植林選定、植林伐採、調査位置測量からなる事前調査は6月の中旬から始まって下旬に終わる。

それから非破壊調査に入る。高密度電気探査は7月いっぱいを見込み、地中レーダ探査と浅層反射法地震探査は7月中旬から8月中旬までの約1ヶ月を見込んでいる。土壌ガス調査は7月下旬から8月中旬までに調査を終え、10月を目途に報告書をまとめる予定である。

県の意気込みを、各住民団体へファックスで送信した。
早速住民団体は、現地視察を予定している。

葱坊主いつしか意地をおりえたり 2005/6/9（木）

「まとめられたり、まとめたり」「助けられたり、助けたり」。談合の話ではない。合併まで残る10ヶ月の円滑な議会運営を目指す新議長の互譲の精神である。

テレビの見すぎだと一笑に付されるだろうが、「へつらう」が、平家滅亡の因となったことはご存知のとおりである。一族を守るのは、情や絆も大切であるが、それが第一ではない。道理を力に家臣を統制すると言う、自分の「新しき国」に対する頼朝の理念を義経に語るシーンがある。

議会議員が合併までの命なら、豊沢氏にとっても同じである。

山門に立つ狛犬は一方は口をかつと開き、他方はむむと閉じている相が阿吽。何事をなすとき、相手との阿吽の呼吸が合うことが必須である。「従命利君」に着膨れていては、それは不可能だ。



葱坊主のように意地をおりえたりして、新議長と阿吽の呼吸で市政運営が出来ることを願ってやまない。

議員在職 10 年表彰 2005/6/8 (水)

虫が鳴いている / いま ないておかなければ / もう駄目だというふうに鳴いている

平成 3 年 12 月、わたしは八木重吉「秋の瞳」の詩に促されて、能代産廃問題に首を突っ込んだ。

能代産廃問題が架橋に入っている平成 13 年、「産廃問題の解決を目指してきたが、まだまだ中途半端の状況だ。実現できていないのに表彰を受けるのは恥ずかしい。支援者に申し訳ない。」そう言って、東北市議会議長の議員在職 6 年の表彰を辞退した。議員表彰辞退は能代市議会はじまって以来のことだった。



今日わたしは、能代産廃問題の解決に特別措置法の適用という方向性が見えた一つの節目に、全国市議会議長の議員在職 10 年の表彰状をいただいた。

自分の仕事とは自分がやっているのではなく、「世の中にやらせてもらっている世の中の仕事」である。誠実に、謙虚に、そして熱心に。

わたしの背中を押してくれる多くの方々に、心から感謝を申し上げたい。



この十数年の生活すべてが能代産廃に明け暮れてしていた私は、まわりに色とりどりに咲くバラの花に、今年、初めて気がついた。

粛々と無欲が勝利して決まるコンクラーベ 2005/6/8（水）

人事に燃えて画策に奔走する一部議員をよそ目に、豊沢市政に対しては「是々非々」のスタンスで臨むわたしが会派は、「二ツ井町との合併をまじかに控え、最後の議会仕切り役は大倉氏以外にいない」と、それを貫いただけである。それに賛同するものあり、協力するものありの無欲が勝利して安定多数で議長と副議長が決まった。

あの 5 人組が連合を組んだとき、わたしは「中田満の芝居は万事上手くいくとは限らない。策士策略に溺れるという事もある。」と言った。逆にまわりに包囲されて孤立するだろう、と 思っていたが、まさしくそのとおりとなった。

議長当選を祈願してかしわ手を打ったが、その後の打つ手がなかった。5 人組を率いる豊沢影の市長中田満氏の完敗に終わった。



シランの隣に都わすれの花が咲く

ポスト欲しさの狂人にされて

そもそも、農業委員会委員は能代市議会の慣例として「第二会派」に割り当てられてきた。能代市議会の任期の折り返しを迎えた各常任委員会など構成委員の「枠」の割り振りを先月 25 日までに議長宛に提出した時点での「第 2 会派」は、わたしが会派だった。すでに枠の配分を終わっていた。

その後、突如 5 人組が結成されて「第 3 会派」になったことから、会派バランスを考慮して枠が決まっていた農業委員会委員の返上を申し出たが、勢力が伸びて「第 2 会派」に格上げになった 5 人組連合は、「その必要はありません。先の議会運営委員会で決まったことはそのままいきましょう。農業委員会委員はいりません。」となって、あらためて 6 月 1 日に議会運営委員会を開催して会派の割り振りを確認したのである。

わたしが会派会長もまさか自分が議長になるとは思ってもいなかっただろうが、結果として議長になって農業委員会委員を兼任することは出来ない。予てより議会推薦農業委員は、民間から選出をすべきと主張している私は固辞したが会派内での人材不足もあって先回に引き続きわたしはその任務を引き受けざるを得なかった。

ところが、わたしが会派を 5 人組連合の補完会派と踏んでいたのだろう。議長選、副議長選に勝利を収めることは出来なかった。とたんに、「農業委員会委員は、第 2 会派にある」と言い出したようだ。結局、畠山一男 5 人組会長と畠貞一郎幹事長は、農業委員会委員の議長指名を決する本会議場を抜け出していた。

人事が好転しそうになると、昨日まで罵倒しあっていた人が突然「いい人」になり変わり、して「じっ魂の仲」を、見せつけ合うのである。それがまた逆になると、人事まで認められなくなるのである。

信太氏にあっては「原田は、月4万円の報酬欲しさにこの度で降りなければならない農業委員を狂気となって走り回り、その席に着く畠山議員を押し出して居直ることになった。」と言い出した。狂言者と狂人はちがう。とうとう、わたしは「場末のキャバレーの下品な女給」から「ポスト欲しさの狂人」にされてしまったのである。

2年前に引き続き今度もまたわたしは、議長選及び常任委員長絡みで希望する議会常任委員会に行くことが出来なかった。会派内での人事配置はこれはこれで致しかたのないことであり、互譲の精神で文京民生委員会に所属することになった。福祉関係にかかわる「民生」の委員会経験はあるが、「文京」つまり、学校教育・文化関係は始めてである。

市当局が設置する各種委員会、審議会などの委員がある。わたしは都市計画審議会委員をお引き受けした。

更衣 2005/6/7（火）

季節の移り変わりに合わせて衣服を改めるのが「更衣」。特に夏の衣服に替える6月はこの言葉からスタートする。昭和30年代から始まった家電の「三種の神器」の一つに、冷暖房の設備普及がある。実際の天気や気温にあわせて柔軟に対応する人が多くなった。

だが、今月から政府の音頭取りで始まった夏の軽装運動は、「クール・ビズ」と命名してネクタイをはずした開襟シャツなどの格好になった。地球温暖化対策の一つという。

環境省は、財界人らをモデルに夏服ショウを開いた。故大平正芳氏のテーラード半袖スーツ姿と、羽田孜氏のスタンドカラー半袖スーツを着た両総理大臣を思い浮かぶがどちらも不評だったことを思い出した。

わたしも全国1番に取得した一級洋裁士であるから、日本の服装が「和服」か「洋服」かを論じた岩倉具視氏らの歴史本がある。これによれば洋服派が「外国との交際に欠かせない」と言って「和服派」を説き伏せたとある。

地球温暖化防止と軽装運動の狙いは結構だ。が、とくに年配者は若々しさを取り戻すような「おしゃれ」になっていただきたいが、くだけすぎてだらしく見える「ただのおっさん」にだけはなって欲しくない。

一筋縄ではいきそうもないだろうが。

処分場調査実施の入り口 2005/6/6（月）

能代産業廃棄物処理センターに係る処分場 NO.1、NO.2に係る不適正処理に関する情報について、秋田県環境整備課のヒアリングが終わり、第5回能代産業廃棄物処理センター環境対策協議会を開催した。

今年度実施する環境対策の概要説明が行われ、NO.1、NO.2 処分場を対象に、高密度電

気探査など4つの手法を組み合わせた処分場調査を実施する報告があった。

私たちは、掘削調査の事前調査になるそのスケジュールが把握できるよう工程表の提出を県にお願いするとともに、赤く錆びて老朽化した焼却炉の安全対策について、県の考え方を訊ねた。ダイオキシン絡みで解体は難儀であることを認めながらも耐震対策を含め崩壊防止には、注意深く監視をしているようだった。

世界環境 DAY 2005/6/5 (日)

空から見た環境の変化を「面」として捉えたニュースが流れる。世界各地でその地図の「面」は侵食されて縮小したり、流れを変えてほそく延びたり、広がったりと。

「立体的」に視たら、能代産廃センターの埋め立て処分場跡地も日本地理院の標高を変えなければならない状況にある。標高58メートルに積み上げた「嵩上げ廃棄物」は約13メートルを超えるに及ぶからだ。



95/6/16 アンコ型に膨れた青いシートの部分は崩落寸前であった。その1ヵ月後、さらに一段嵩上げして7月13日未明崩壊した。嵩上げはG Lから一段3m×5段+1m。

健康は、丈夫な歯があればこそ 2005/6/4 (土)

今日6月4日から10日まで歯の衛生週間。虫歯予防週間といったものだ。

「バスに乗ってこれから能代に行くぞ」引率する先生の跡にくっついて「選ばれて」よく能代に連れて来られていた。オリンピック(ヘルシンキ大会?)から帰った小野喬選手と、第一中学校の体育館で平均台やマットレス運動を一緒にやっていたかと思うと、いつの間にか、よい歯のコンクールで2位になっていた。優秀1位は「山谷」だった。そのときは、虫歯は一本もなかったし、ねずみの歯のようにきれいな歯並びと丈夫な強い歯をしていたのだろう。

その頃家の増改築をしていた。大工さんは重労働のため、三食のほかに午前と午後一回ずついっぴくの休憩を指す「たばこ」での食べ物が唯一の楽しみだった。当時の私と言えば、その「たばこ」タイムが、午前は2時間目の10分休みにあたり、午後は6時間目の授

業が終わるにあたる。もう、一目散に家に帰り、大工さんが「いっぴくの休憩」をする前に母が用意した「たばこ」おやつを全部食べた。大工の親方が「また、やられた。空茶で我慢するか」と、ぼそぼそ言っているのを今でいう資材置き場の影で聞いていた。

中学の 2 年のとき盲腸になった。退院したと同時に歯が痛くて着ていた着物をストーブで焦がして転げまわった。母に叱られながら、初めて歯医者者の門をくぐった。

80 歳までに 20 本の自分の歯を大切にしようと、秋田県はいま「8020」運動を勧めている。その昔、棟梁、大工さんに空茶を飲ませた結果、80 歳までには生きられるかどうか分からないが既に自歯 20 本の持ち合わせがない。つくづく、健康は、丈夫な歯があればこそと、反省している。

♪最後のしあげはお母さん♪と、今日も、孫たちは親子で歯磨きしている。
わたしもいまからでも遅くない。残る歯を大切に、口腔ケアについてよく考えよう。

「大きな魚は小さな魚を食う」？ 2005/6/3（金）

「大きな魚は小さな魚を食う」という寓意の世界には、攻防の始まりに逆に「小さな魚が、大きな魚をのみ込む」ということもある。そのほうに緊張感がある。

ところで、たかが 1 センチされど 1 センチ。それでも鯛にも平目にもなれない癖した 5 センチ中魚が「このポストは君たちへあげるから、協力を」ときた。4 センチ小魚は「話し合いもなく勝手に決められては困る。そんなものはいらん」と、つき返した。

眼だけを平目した中魚が天下を取ったように浮き足立って、はしり泳ぎまわっている。
「従命利君」を排除しなければ、「世の中」の浄化にならない。
「逆命利君」であればこそ、是々非々を貫くことも出来る。

「激情」演技役者の茶番狂言！ 2005/6/2（木）

泡沫な激情演技役者は、人の名を借りて「政治倫理」を持ち出して来た。
議員が政治倫理に抵触しているか否かについて、これまでもズーと議論されてきたが、なかなかそのボーダーラインの判断が付きにくい状態にあったことは事実だった。

しかし、今回、政治倫理審査会に審査請求する準備を始めたのは、そもそも誰だったのか、どこの会派だったのか？

議員に能代市議会議員政治倫理条例に違反している疑いを持つ住民が、正規の手続きを踏んで政治倫理審査会に審査請求することが、イコール議員資格剥奪ではない。こんなこと言ったら、住民が行使できる権利を阻害しようとしている行為になる。

会議開催ごと恨みつらみを持ってばかりの「激情」演技役者の茶番狂言となる。決して本当のことは言わない。嘘をついて話を誇大する。

狂言者も大根だが、「従命利君」がポストの分捕り合戦に、政治倫理を利用して仲間の殺し合いをさせようとするのはいけない。

ポストをめぐって「時間外取引」 2005/5/31（火）

能代市議会は、任期の折り返しを迎え、6月定例議会で各常任委員会など構成委員の「枠」の割り振りを去る5月27日まで各会派から議長宛に提出することにしていた。ところが、物の怪5キブリが大河・生々・みどり連合をつくり、自民党系議員8人が再編した会派が出来るとしてさらに流動的で、結局構成委員の「枠」の割り振りが、振り出しに戻った形だ。

♪うんてんしゅはきみだ、しゃしょうはぼくだ。しゃしょうは君に、うんてんしゅは僕に。あれ？ 運転手は僕だ、車掌も僕だ、後の♪

二人の人間が地位や財産で争う喩えに、「一本の骨に犬二匹」という諺がある。議会ポストをめぐっては、犬二匹ならぬ中田満氏が率いる物の怪「従命利君」の命を受けた小心者が、なりふりかまわず狡猾な手段を使う「時間外取引」交渉が始まっていた。

「従命利君」中田満氏が、陰に隠れていつまでも「親指の上で世の中をかき回す」ことは、させない。もう、そんな時代ではないじゃないか。

環境整備状況は上々 2005/5/30（月）

今日、わたしは能代産廃処理センターの現場に久々に出かけた。5年ぶりに能代保健所に来たという職員は、わたしから電話が来ると、「センターで何かあったかな」と、どきっとすると言っていた。

そうだ。あの頃は、あの手この手を使って場内水を無断放流する事業者と、それを取り締まる役所を相手に、住民はいつもトライアングルのいたちごっこをしていた。

この問題の解決に特別措置法の適用という方向性が見えたこともあってか、現場をみて説明する職員の、重ーい荷が下りた後の肩の力入れようが、ちがって見えた。



「蒲の沢」汚水集水対策

滲出水集水対策

「大館沢」汚水集水対策

汚水漏れが続く「蒲の沢」では平成8年にボーリングした跡から染み出してくる汚れが気になるが、お天気が続いているせいか、今日はいつも目立つ汚れた土が乾いていた。蒲の沢、大館沢を視て回って、環境整備がよくされていることを実感した。

場内では赤くさびて朽ちた焼却炉が目立つようになった。耐震対策を含め崩壊防止の調査をしなければいけないのではないかと。これもダイオキシン絡みで解体は難儀で、思うようにはならない負の代物だ。



秋田県は、6月6日、午後1時30分から、浅内自治会館において、第5回能代産業廃棄物処理センターに係る環境対策協議会の開催を予定している。

いよいよ処分場の調査に入るのか。まず、住民の不安解消は一步步、一步步信頼関係の構築から始まる。

蒲の沢、南沢、大館沢を、しっかり視て回りながらもデジカメの練習をしているのと言いい「カメ」に振り回されて写真を撮った。陽を浴びてあざやかに咲くつつじの花も美しく、まわりの草花をみる目にも余裕が出来た。



合併に反対した人たちが、口漱ぐ 2005/5/29（日）2005/5/30（月）

周囲からの評価もかんばしくなく、評判もよくなっている。

良かれと思って掃き溜めに巣くった物の怪連合は、逆に包囲されて孤立する。

29日の地元紙に、物の怪の合婚の経緯、意義を4期議員が泡沫1期にのせられて記者会見で次のように語った。

新会派会長となった畠山氏は「具体的政策は議論を重ね、（合併までの）一年間、しっかりやっていききたいと思い結成した。豊沢市政を検証し、政策提言をしていきたい」

おやおや？ これから新会派の政策を議論していたのでは、豊沢政権の方が先に終わってしまうのではありませんか。

昨年12月まで会派を同じくしていた柳谷氏は、「合併問題の仕上げを考えた時、合併に熱心だった大河の会や、みどりの会とスクラム組んでいきたいという気持ちになった。思いつきや成り行きではない」

二ツ井町との合併に反対した人たちが、口を漱ぐ。合併を成就させるため、議員が費やした労苦の決定を否定する発言に、憤慨したのはわたし一人ではない。

泡沫信太氏は、もう、論外。この 2 年間、会派制も、数の論理も否定して批判してきたのはどこへ、どういったものやら。物の怪連合結成した途端に急転直下肯定論になった。

「数の論理も作用してくるのではないか」と言って、議会ポストは力の強いものが弱いものを支配できるとしている。

自ら礼儀仁義、恩義など存在しないと断言しているだけあって、本性本音をむき出した「負け犬」の遠吠えは、「力も技も器もないが、見てくれのただの目立ちたがりやになりた」と、宣言しているだけだ。

のしろ港は、いまごろビジョンですか 2005/5/29 (日)

今日のはからりと晴れた五月晴れ。子どもたちは家族連れでポンゴコ山におにぎり持って出かけた。のしろ子どもまつりに、けやき公園市民音楽祭、パッチワーク・キルト展など。さまざまなイベントに、たくさんの人の動きが街をにぎわすことはいいことだ。



能代港の利活用に深い関心を持ってきた私は、能代山本広域交流センターで開かれた「第 1 回みんなで話そう、わたしも一言 能代みなと大討論会」に、参加した。

5 人の話題提供者は、それぞれ 10 分の持ち時間の中で能代港に対する思いを発表し、会場に

る参加者と意見交換をした。

主催者は、今日が第 1 回目だから 2 回目もあると言っていたが、港アリーナをイベントなどレクリエーション港活用に期待する市民の声が多かった。それはそれでいい。しかし、本来のコンテナ港としての将来はどうか。ポートセールスはどうか。荷役関係者の意見をもっと聞きたかった。



工業港の利活用に臨む 4 万トン岸壁



火力発電所と手前左側は石炭灰最終処分場

港と関連して東北電力の火力発電所が出来た。それに伴い電源交付金が入って子ども館などさまざまな施設がつけられた。しかし、このままでは港の整備を一手に引き受けて肥った中田建設が、巨大な税金で釣堀を造った歴史に終わってしまう。

公共の工事として、先ず「能代港」を整備したはいいが、はて、どうして、どうやって使ったらいいものか。主催者の国土交通省もお手上げ状態を露呈していた。

港湾道路を回って帰路に着いた。
ハマナスロードの甘い香りに車を止めた。
可憐に咲くハマナスの花もいいが、その足元に
競い合って咲く浜えんどうの花もまた、可愛い。



物の怪のポストほしさの合婚届け 2005/5/26 (木)

つねに何処かに火の匂いするこの人の。豊沢第二市長中田満とそのあっシー君畠貞一郎、畠山一男、そして遠心分離機からはじき出された泡沫一固体信太和子の4人に、渡り鳥柳谷渉氏。

一歩外に出ると、あれほどお互いを批判し、敬遠していたもののけ同士が、奇奇怪怪な合婚の届出をしたという知らせが入った。なにになに？ 大河・生々・みどり連合？

能代市議会は、任期の折り返しを迎え、6月定例議会で各常任委員会など構成委員の「枠」の割り振りを明日27日まで各会派から議長宛に提出することになっていた。

議会ポストを獲得し、豊沢与党を磐石にしようと、それで数を合わせたのだろう。自民系会派の5人と並ぶ最大会派を狙っていることが明々白々、誰にでもよく分かる。

そうだ。満の父、中田初雄が秋田県議会議長になるために議員に配った「議長席を筋子で買収」は有名だが、けっちな息子・中田満の手土産はせいぜい、あなたには議長を、副議長を、あなたには監査を、消防議会を、常任委員会委員長 等等であろう。

さらに、この手土産ほしさのあまりに、僕も、ぼくチンもと、中田満にぶら下がる物の怪もいるようだ。

だが、中田満の芝居は万事上手くいくとは限らない。策士策略に溺れるという事もある。

私達会派4人は構成員名簿を期限前に提出してある。二ツ井との合併をあと残り少ない1年を切って、混乱のそれだけは避けようと話し合ったばかりであった。が、間もなく始まる6月議会は、大河・生々・みどり連合の狙いどおり、各常任委員会構成委員の「枠」の割り振りに、当然影響を与えることだろう。それよりも議長・副議長選でさらに混乱・混乱するだろう。

中田兄弟に対する十分な抑止力になった 2005/5/26 (木)

中田潤県議は植樹祭、防災訓練で合った眼を、逸らしてわたしの前から姿を消した。

こじつけて言い逃れに必死になっている人、その陰で糸を操って漁夫の利を得ようとしている人。この同一役者兄弟を最初は、協力者として好意的に見ていた。

しかし、能代産廃センターの再稼働をほのめかしたり、今回の世界でたった一つの私の記録テープが、公職にある中田兄弟が人を騙し無断で目的外にテープをダビングして使用し流出した問題の経緯などを知るにつれて、「能代産廃の環境対策を阻害することはしてはいけない」と、義憤を感じた。

電気屋さんを利用したりして、仲間内に殺し合いをさせようとする偽善者中田兄弟の追い込み洗脳マインドコントロールは、ホームページで中田兄弟に対する十分な抑止力になったことで役割は十分果たした。

あれから、もう 22 年 2005/5/26 (木)

早いものだ。22 年前も今日のように暑いくらいの天気だった。

地震で畳が起き上がったかのようになっているところへ車が突っ込んで、横転した。その下敷きになってひとりで孫を育てていた「ハルばあさん」は、死んだ。

「父さんが、浜から帰ってこね！」かんぺの別家の由子さん。軽トラックだけが浜小屋近くに打ち上げられて見つかった。夜は火を焚き、まいにち毎日浜を探した。キヨミと書いたシャツが肩にやっとかっついて「父さん」が見つかったのは、行方不明者の一番最後だったような気がする。

そして今日、第 22 回能代市防災訓練が行われた。



【海難救助訓練】能代港 4 万トン岸壁では、能代港内で港湾工事作業員が津波により漂流したため、秋田海上保安部はヘリコプター「なまはげ」及び海難巡視船による搜索救助活動を開始する。

視察で海難巡視船に乗り込んで説明を聞いているとき、すでに発炎筒のある場所から漂流者が「なまはげ」に吊り上げられ、病院に搬送するため立ち去ろうとしていた。あれ、去年とはずいぶん簡素なくらい手順がよく。う～ん。時子さんと二人でうなってしまった。ちなみに、巡視船は山形から出張してきていた。緊張感が足りなくなって、セレモニー的になってきているのかなあ。毎年、慰霊碑の前で由子さん家族と会う。

経験したものでなければ分らない記憶を、記録にして伝えなければならない。

浅内に咲く藤の花 2005/5/25 (水)

浅内に咲く藤の花もきれいだ。特にピンク色した藤の花は珍しいのか写真を撮るため、わざわざ足を運んで市内外から来てくれると、うれしい悲鳴を上げていた。



昭和 32 年の大火から街路樹を植えて始まった能代市植樹祭は、檜山地区の旧桧山中学校のグラウンドに紅枝垂桜 37 本を植栽して行われた。

わたしは、平成 6 年から市の花であるハマナスの植栽に参加して、港湾道路沿えにハマナスロードを、アリナス周辺にも植えた。

緑豊かな環境づくりは、総合的なランドデザインが描かれないまま、「なぜいま、桧山地区だったのか」と、いう参加者がいた。

「いいんじゃない？ 説明は後からくっついてくるのが、豊沢流だから」

「漱石枕流」 2005/5/24 (火)

かなり若かりし頃のわたしの手帳にこんなことがメモで書き込んでいた。こじつけて言い逃れること、負け惜しみが強いことを「漱石枕流」という。「石に枕し、流れに漱ぐ」石を枕にして眠り、川の流れて口を漱ぐ。 ? これだけでは「言い逃れ」の意味するところまでわたしの脳の容量はおぼつかない。

「漱石」と言えば夏目漱石。どう生きたらいいのか苦しみの作家であった夏目漱石は、いったい、どんなことをしたのだろうと 。笑わないでください。「漱石枕流」を漱石四字熟語とばかり 言葉こそおぼえて知ってはいたが、その意味が今一はっきり掴み取れないままでした。

そして、今日、やっとインターネットで解りました。

ある人が「石に枕し、流れに漱ぐ」ような自然の中で生活がしたいということを、間違えて「石に漱ぎ、流れに枕し」と言ってしまった。それはちがうと指摘されても、石に漱ぐのは歯を磨くためであり、流れに枕するのは耳を洗うためだとこじつけて、言い逃れした。と、というのが由来だった。中国の故事でした。

幸運の前触れ？わたしもみました 2005/5/23（月）

昨日、虹のようで虹でない空の色を見た。
赤、青、黄、ピンクに緑等のパステルカラーだ。
今朝の地元紙北羽新報に、この雲は「彩雲」というそうだ。慶雲、瑞雲とも言われ、昔は「吉兆」とされたとある。
これを見た人には幸運が訪れるかも？と。
いい雲を見た。わたしに、幸運の前触れをしてあの雲はどこへ行ったかな。



少人数学級で、運動会は立派にこなします 2005/5/22（日）

都道府県の判断でそれ以下に抑えることも出来るが現在の1学級の上限は40人で、1学年が41人以上になると2学級以上となる。これに基づいて教職員の定数を算出して義務教育費国庫負担制度により、国が給与の半分を負担する仕組みである。

1980年以来、40人学級を導入してきた文部科学省は、この基準を変更して、小学校一、二年生については一学級35人とする方針を固めた。

秋田県は既に、小学校一、二年生に限り30人一学級、中学校でも一年生は30人以下とした取り組みが先行している。少人数学級実施に係る教職員の給与の負担は、国庫負担の基本はそのままだから、地方負担となる。

国は、教育と経済を天秤にかけ国庫負担を出来るだけ抑えようとしているのではないかと、疑問が残る。そして、なぜ、いまごろ一学級35人なのか。一律に40人より少ない学級にすればいいというものではない。

文部科学省は「必ずしも少人数学級で学習効果が上がるとはいえない」と言ってきた。地方の取り組みを追認することになった形であるが、舵を切るなら適正な学級規模について机上論議ではなく、現場の実情に合わせた対応が不可欠でないか。

見てくれ！ 創立130周年記念 大運動会



明るく、楽しく、たくましく。少人数学級でもこんなに立派に運動会が出来ている。

今日ばかりは、地域の住民が赤ちゃんからお年寄りまで一同に顔を合わせ、生き生きとした互いの存在を確かめ合う、春のいちばんいい日になっている。

一方で、来春の完成を目指して学校改築のための工事が始まっていた。

がんばれ！ 最後の校舎が君を見ている！

運動会の帰り、着替えて田んぼを見回った。
きしけの爺さんが「おお、おめだがぁ」
田植えの作業を終わった、田んぼの水の張り具合を見ていた。



まわりには、綿毛に咲いたタンポポが一面に広がっていた。

健康ライフ「あだった！」 2005/5/21（土）

19日の晩食マグロの刺身が、ストレスに直撃「あだって」しまった。

20日金曜日の午前1時夜中から朝方ひどい嘔吐と下痢に 。昼までに病院で点滴をして帰宅した。夕方、吐き気は治まらずおまけに今度は38度の高熱と激しい頭痛にうなされた。夜9時、我慢できなくなって再度病院に電話した。

「いま医師がおりません。 （沈黙） 先生は急患を診て1時間近くかかっていますので、今すぐ来てもあなたの診察は出来ません。診てもらうのでしたらいまから1時間後においでください。頭が痛いのは解熱剤を飲めば治ります。市販の薬も持っていないんですか」と、つれない返事。

もう、あったまに来た！「これは、診察拒否ですか？ 医師はいるの？いないの？ それでも看護師は指示できるのか！ 救急車で駆けつけたら診てくれるの？ 等等」と、言いたいところであったが、あきれ返って声もでなかった。

刺身は鮮度が落ちていなかった。

日ごろの精神的ストレスでかなり疲れていたのだろう。それに「あだって」、生まれて初めての経験をしました。



頭が動けば尾も動く 2005/5/19（木）

路上、偶然知人に出会った。「がっかりした。これほどまでとは」と、力を落としていた。誰に言い訳しているのか「ベターな選択肢よりなかったのよ」と、延々と嘆き続けた。14日、豊沢有兄市政報告会に出席したときの感想を述べているようだった。豊沢氏には、ここの言葉で“どぶでえ”と、“ずれえ無責任”さがあるという。

「だから、2年もつとまってるのよ。人にはいろいろなタイプがある。豊沢氏は頼朝如く組織力を大事にする人でもなく、さりとして義経の如くにもあらず。選んだ人の責任として“がんばろう。”と、わたしは、おもわず訳の分からないことを言って、励ましていた。

「当選してしまった」そう言って、真っ青な顔したスタッフがいたことを忘れていない。人は、率先垂範する人がいれば、その人についていくものなのだ。まとまりが悪いから、なかなか目的達成することが出来ない集団、組織の原因は何か。はっきりとした目標が示されていないとか、リーダーシップが発揮されていないとか。一年で出来なかったものは四年経っても出来るわけがない。

へつらって命令に従うことはますます豊沢氏を悩ませ、腐敗に導く。豊沢氏もまた「従命利君」から「逆命利君」を重んずる転換が必要でないか。

「ふきのとう」は、いま 2005/5/18 (水)



「ふきのとう、かさが大きくなるフキになるの？」

「ええっ？ ちがうってば！」

遅い今年の雪のとけはじめた頃、甘辛煮した「ふきのとう」にまだ残る苦味を絶賛して食した友人は、このかた云十年というもの「ふきのとう」の地下茎が大きく高

くのびてフキになると思っていたらしい。

そう言えば、雪の下から顔を出す「ふきのとう」を待ち受けて春が来たと季節の移りかわりを感じていたが、春になってフキをあまり気にしないでいた。



まさか、稲穂が木に生っているなんて思っていないよね。稲穂は金の木に いや、いや。いまはもう、金にもなってない。

ち、ちがう、違った。

ごめん、ごめん。

「ふきのとう」は別名「ばっけ」と言われますが、今、白い花に「化け」てます。



「能代は出張で対応しています」と、言われて 2005/5/17 (火)

十年一昔と言うなら、かれこれ 恥ずかしくていえないほど使っている愛用のミシンがある。その昔、能代にも支店があった某ミシン屋さんに秋田から往診に来てもらった。

本題のポータブル改造は出来なかったが、ついでに、ちょこちょと油をさしてベルト

調整をしてもらった。出張旅費を含めて 6800 円。お金の問題ではない。能代からこうした会社、お店が無くなってから久しい。「能代は出張で十分対応できています。」

今年 3 月いっぱい朝日新聞能代支局の駐在記者がいなくなって、何かと能代がさびしい。同じように「能代は秋田総局で十分対応できています。」と、言わないでください。

「子ども」 2005/5/17 (火)



子どもは「親の鏡」「親の背中を見て育つ」と、いう。子育てに悩みのない親はいないだろうが、皮肉な警句のたぐいも時には生きる力となって励ましてくれる。

スウェーデンの教科書の中の詩「子ども」は、子育てに真摯に向き合っている思いが込められて皇太子様 45 歳の誕生日の会見で引用されていた。

「子ども」ドロシー・ロー・ノルト (教育学者・米国)

批判ばかりされた子どもは 非難することをおぼえる。

殴られて大きくなった子どもは 力にたよることをおぼえる。

笑いものにされた子どもは ものを言わずにいることをおぼえる。

皮肉にさらされた子どもは 鈍い良心のもちぬしとなる。

しかし、激励を受けた子どもは 自信をおぼえる。

寛容にであった子どもは 忍耐をおぼえる。

賞賛を受けた子どもは 評価することをおぼえる。

フェアプレーを経験した子どもは 公正をおぼえる。

友情を知る子どもは 親切をおぼえる。

可愛がられ抱きしめられた子どもは 世界中の愛情を感じとることをおぼえる。

問題は、子育てにあり？ 2005/5/16 (月)

「真っすぐ、こうして歩くんだよ」と、横歩きしてお手本を見せる親蟹の話がある。

少女の監禁事件が続くニュースに、歪んだ青年を助長させた親の「顔」が見たいと、おもわず言葉が出てしまう。

でも「人のふり見て吾がふり直せ」ともいう。そうすると「問題は、子育てにあり」と、一言に到らない。

ああ、びっくりした 2005/5/15 (日)



食べられるしどけの葉表は少し光沢がある

食べられるしどけの葉裏

常兄が早朝の山回りで、一掴みのしどけとあいことワラビを採ってきた。お湯を沸かしながら新聞を開いて読んだ。新聞の写真の毒草トリカブトに葉っぱは似ているが「ツヤ」がない。つい先だっても食べたんだけど、毒に「あだってない」証拠に、「生きている！」と、おもわず胸に手を当てた。

間もなく、今朝の新聞報道には、間違いがありましたと、テレビニュースが流れてきた。

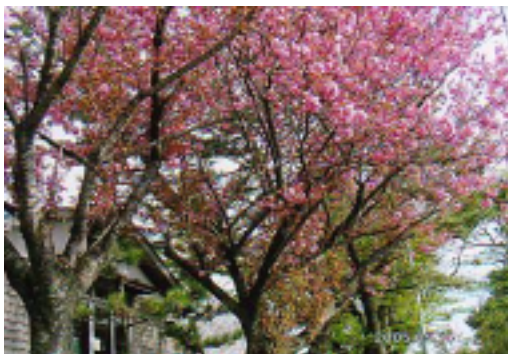
ああ、びっくりした。安心して食べた。

まわりをみると 2005/5/14 (土)

季節の一番いいとき。コンクリートのすき間に咲くタンポポ。見上げると高く伸びたライラックの花が咲いていた。



豪華絢爛満開に
咲く浅内小学校脇
の八重桜。



「ワラビ採ってきた」と、田のあぜに立つて腰を伸ばして見せる知人。

「ばっけ」の花が白く咲いていた。

毛虫が葉っぱに昼寝している。そーと声を出さずに帰ってきた。

昨日、13日の地元紙によれば能代署の現在地建て替えを秋田県と県警に要望したようだ。その中身、内容については提供土地の問題にん、んっと思うことあり後ほどにふれたい。

そして今日 14 日、豊沢有兄後援会の市政報告会がある。

公共建築物の木造・木質化の推進に向け、産業の界、学の界、官の界、そのほかに業界に係らないものを民の界にいわゆる「産学官＋民」懇談会を立ち上げるようだ。お気の毒だが、この話し旨くはいかないと思う。

あの会、この会、どの会、最後はどうでもいい会を立ち上げてはつづす。長年続けてきた中田満構想の一連の延長戦に誰もが騙されてきた。仲良しすぎて I N G。

おかげでいま、無為無策の途方にくれている豊沢氏の姿が、ここにある。

所属する委員会？ 2005/5/13（金）

議員任期は 4 年だから、何もここで議員が所属する議会常任委員会を 2 年ごとに改選しなくてもよさそうだが、能代市議会の慣例として、そう になっている。2 年前は議長、副議長選の絡みで私は総務委員会から建設委員会に回った経緯がある。

来春には二ツ井町との合併を控え残る任期のあと 1 年を、私は環境産業委員会を希望したが、今度は建設委員会に偏るだろう一人会派 3 人への配慮と、議会運営委員会“委員”の絡みもあって 。

ああ、今一すっきりしない原因は、ないことをあることに逐一インターネットで情報発信されるからのように感じた。この 2 年間本当に大変だったことは、中国語で言えば「説大話」。自分もその被害に遭っているからよく分かる。

地元の約束 2005/5/11（水）

午後 1 時 30 分。佐々木新生活環境部長と、佐藤新環境課長が異動の挨拶のために、浅内自治会館にわざわざ立ち寄ってくれた。午前中は、能代産廃処理センターの現場に足を運んだと言っておられた。能代産業廃棄物処理センターに係る処分場№1・2に係る不適正処理に関する情報について、秋田県環境整備課のヒアリングが続いているようだ。

負の遺産の後始末は何もかもこれからだ。その節目のときに任務に当たる職員は大変だろうが、私たち地元住民の協力できるところは惜しまない。約束だ。

介護の実態・やっぱり 2005/5/11（水）



母は 9 日から 2 泊 3 日のお泊り会に出かけた。

4 月の半ばだった。「いいよ、どうぞ」という私の返事は聞いているのか、聞かないのか。信兄は「乗用車を貸してけれ、貸してけネバ軽トラにばばを乗せて連れて行く」と、一気にまくし立てていた。

8 日、車を届けた。1 時間 20 分、約 9158 歩で家に辿りついたら電話が鳴った。「5 を知る者が 1 より知らない者に明日のお泊り準備を“教えない”で鍵をテーブルの上に投げで帰った。」と。

すでにお泊り会もデサービスも、お風呂も、トイレも、経験済みのはずであった。タ

クシーで浅内に向かった。母の日だからと姉妹夫婦が揃っていた。信兄の話が飛んでしまっ
って喧々諤々、支離滅裂となって掴みようがない。

分かってもらえない。納得してもらうためのその説明をしたりは信兄をますますあおっ
てしまう、到底無理だと思った。結局、私と常兄が悪者になった。

一人帰り道、気がついた。本当は、介護をどうしていいか、パニック状態になっている
のではないだろうか。お泊り先に 9 日の朝は乗用車の運転を止めてわざわざタクシーで母
を送って行き、今日 11 日は娘が迎えに行ってきた。信兄には、トラック系統は運転できる
が車体がそれより低い乗用車の運転は苦手ではなかった。それもやっぱり。

あれほど介護を一人で背負って重圧になってはいけなさと、心配して言うのだが気持ち
が伝わらない。むなしく辛い。悲しく情けない。

企業も個人情報保護 2005/5/10 (火)

4 月から個人情報保護法が施行された。個人情報を取り扱う事業者が、情報の適正な取り
扱いルールを守ること、プライバシーなど個人の権利などの侵害を未然に防ぐのが目的
だ。ただし、過去 6 ヶ月以内に五千人を超える個人情報を扱ったことがない事業者は法の
対象外。

ところで私たちは、サービスの利用者や消費者から信頼が得られる個人情報の保護を適
切にやっている企業をどうやって見分けられるだろうか。私だけが持っているビデオテー
プも何かしらの個人情報に基づいて仕掛けられて流出した結果だろう。

飛躍的に普及した高度な情報化社会では、簡単かつ無限に情報がコピーできる世界であ
る。漏洩は深刻なプライバシー侵害となってそれを取り締まる側と「いたちごっこ」のよ
うになるのではないか。情報に携わる個々人のモラル向上と高いレベルの管理技術が求め
られている。

「個人情報を保護しています」と積極的に証明して企業の姿勢を示す必要がある。

健康ライフ 50 肩は御不自由肩 2005/5/8 (日)

ちょうど 1 年前のいまごろだった。泳ぎのワンストロークで左肩に激痛が走った。ピー
ト板を使って泳ぐ時間が少し長かったかな、気をつけようと。それから上にも横にも後
ろにも腕が回らなくなった。髪も洗えない。洗濯物さえ干せない。高いところに手が届か
ない。動かすと肩に激痛が走る。戸の開け閉めも出来ず、車のギアチェンジさえ出来なく
なっていた。

10 月になって、医者診断を受けた。「ぞくにいう 50 肩というのは、肩関節のバラ
ンスが崩れる筋肉の老化が原因です。つまり、腕と肩甲骨が共同作業で 180 度上げること
が出来のに 60 度までしかあげられない。肩と腕のつながりの部分ある活液（潤滑油）の
おかげで動いている上腕が、筋肉が衰えて活液（潤滑油）が乾くと糊が固まったようにな
る」と説明してくれた。「二週間に一度の局部注射と毎日薬を飲み続けることで、暖くな

る春頃には少し楽になります。」と、治療をすすめてくれた。ここまで言われると納得したが、私は、注射と、ワンと吠える犬と、眼がどこにあるかわからない毛虫は、嫌いというものではなく「怖い」のだ。

看護婦さんにガッツリと抱えてもらって注射を続けている。確かに少し痛みと動きは楽になっているが、痛いのもつらいが腕が自由にならないのがもっとつらい。50 肩は御不自由肩となって私のストレスになっている。

肩甲骨は健康骨でなければならない。

案内状 2005/5/7 (土)

豊沢有兄後援会から案内状が届いているけど、どうしたらいいべと、電話が来た。私にも先月 24 日ごろに届いているがまだ返事を出していなかった。

ある日、豊沢市長のおとりまきの一人からこんなことを言われた。「豊沢市長が取り組む能代港リサイクル港化や資源循環型社会を実現するには、能代産廃に関わってきた原田悦子をどうやって排除するか。県も市も産廃問題の取り組み方に問題視する職員がいる」と、いう内容のようだった。

ふ、ふん。よく、言うよ。豊沢氏が私から逃げてることくらいわかっているワイ。尻に火がつくほど中田兄弟の想いどうりにならなくなったからだべ。ホリエモンではないけど、すべて想定の範囲内ですから。残念！

出席者の顔ぶれの中にあれよこれよと豊沢第二市長の顔まで浮かんだ。欠席に○した。

「お食い初め」ぼく最高！ 2005/5/5 (木)

アイスクリームの「お食い初め」に、禁断の味を覚えました。(05/3/24)
お姉さんの菜月さんから初めてのアイスクリームをちょっとばかり、なめさせてもらいました。おいしー！ なつきおねえちゃん、もう ちょっ、ちょっとだけ！
満 1 歳、陽くん至福のときです。姉弟仲良く、いつも健やかにそして元気に。



介護の実態・家族会議2 2005/5/3(火)

親の介護をめぐって、どこでもけんかの類はがあると友人は慰めてくれたが
あれから、まだ続いていた。

そしてとうとう、「あのときにあの金を使った、金が返ってこない、貰っていない。帳面がなくなった。」と、なった。最後は、母の介護に行き詰まったら母を連れて首吊って死ぬとまで言い出した。母は今、居場所が変わっても穏やか状態を保っている。介護がパニック状態になっているとは思えなかったが、痴呆の始まりの母と同じ状態に見えた。昭和13年生まれの兄は、これまで2度瞬間的に記憶を全くなくしてしまうことがあった。

議員給料のすべてが能代産廃に使ったから貯えなぞ私にはなかった。母のためのトイレ・風呂などの改造費がすべて私の借金になってしまったが、いまの兄の状況から、ここで逆らってはいけなと判断した私は、昨日、16年度の還付金から兄の口座に送金した伝票を、見せた。そしたら「金はいらん」と、何も言わなくなってしまった。

それでも死んでやると騒ぐので、私は「そうやって死んだ人の話し聞いたことねえから人の迷惑にならないように生きるも死ぬもご勝手にどうぞ!」と言ってしまった。

もう、話は開パの負担金から田んぼの水路から山の手入れから、鯉のえさの話まで支離滅裂になって、いったいどうしてこんな騒ぎに



母が私の座っているところへ擦り寄ってきて手をとって言った。

「長生きして悪りーな。年寄りのせいで首吊って死んだってことにならねでけれやあ、頼むよ。もう少し面倒見でけれ」
母の方が冷静沈着な判断をしていた。

介護にまつわるいろいろな家庭の問題、悩みを聞くことがある。ご多分に漏れず我が家にも悩みがいっぱいあることを隠さないで話している。

こういうときも千差万別と言うんだろうか。10人いればどれがどう一番よくてと言われな
い。10人10方法の介護がある。

大惨事から一週間 2005/5/2 (月)

突然、愛する人を奪われた家族の悲しみを思うと、胸がしめつけられる。

乗客のうちクラッシュ症候群で亡くなられた方を含めて107人の死亡が確認され、負傷者は約460人に上った。

とんでもない惨事になった事故は4月25日午前9時18分に起きた。

約580人の乗客を乗せたJR西日本の福知山線で快速電車が脱線し、先頭の車両は、線路から約6メートル脇の9階建てマンション一階駐車場にめり込み、2両目はくの字に曲がって建物に巻きつくようにして大破している。
(秋田魁新聞ニュース掲載写真から)



1963年の横須賀線鶴見事故で161人が死亡して以来だという。

日本の鉄道は安全性が高いと評価されていた。それが想像絶する破壊力で崩れてしまった事故の原因は、これほどの犠牲を出した運転士の責任は重いがそれだけでない、あらゆる角度から究明することに全力を注ぐほかない。鉄道工学を揺るがした地下鉄日比谷線の事故も記憶にある。しかし、またもや起きた脱線事故は鉄道史上まれにみる大惨事となった。

JRが失った信頼の回復は、徹底した原因究明と、人の命をあずかる責任者として安全が何より優先した再発防止策の確立からである。

あいさつ 2005/4/28 (木)

午後2時を過ぎた頃だったろうか。佐藤憲之助生活環境部長と、佐藤充環境課長が異動の挨拶のために、地元の住民数人が市の広報など配布準備に追われて雑としている浅内自治会館にわざわざ立ち寄ってくれた。

「能代産廃の環境対策は、しっかり伝達していく。」と、力強くそして丁重なお挨拶をいただいた。保坂高道氏が「いろいろきついことばかりを言ってしまいましたが、お許しを。今後もどうか宜しく頼みます」と言った。

私は、ほっとした。失われていた信頼の回復に少しずつ歩み寄りができる瞬間を大切にしたいと思った。

電線地中化・広々とした青空が見える街 2005/4/24 (日)

地元紙のニュース(4/20)に紹介されていた。わたしも気がついて前々から写真を撮り続けていたので、ちょっとばかり紹介させてください。昭南町から柳町通りの電柱のトランスからくもの巣が這うようにめぐらされていた電線がなくなって、残っていた裸の電柱も撤去されていた。歩いてみると目線が広々として青空が見える。ジャスコを中心に東側、西側の街灯の照明が目立つ夜の景観がまたいい。今年の七夕が勇壮に通る準備が出来た。



大王製紙訴訟の終結 2005/4/20 (水)

1989年1月、本社愛媛県にある大王製紙と秋田県、秋田市が覚書に調印して進出が決まった。協定締結後、92年7月、進出を反対する住民166人が、大王製紙に玉川ダムの工業用水を供給する水道会計に秋田県が支出する補助金113億円と、秋田市が支出する補助金89億円の差し止めと、この会社が使用する産業廃棄物最終処分場の使用差し止めを求めて秋田地裁に提訴したのである。

能代の産廃問題の運動の始まりの中で何度か抽選に外れることもあったが傍聴に行き、弁護団の報告集会に参加することが出来た。事務局長佐々木くみさんとの出会いの始まりであった。

93年4月、紙の需要と供給のバランスが崩れている業界の現状を知ったとき、大王製紙が最初の進出延期を表明した。私は裁判の進め方を学びながら時を同じくして能代産廃問題で浅内財産区管理者能代市長を相手に提訴した。

99年3月、秋田地裁は処分場の使用差し止めを求める住民の訴えは棄却したが、秋田県と秋田市の補助金差し止める住民勝訴の判決を下した。



産業廃棄物最終処分場は、埋立て終了と同時に土地造成事業が行われ、大王製紙が工場敷地として取得する。



工場から排水は、赤茶色になって街中を流れる。

「秋田には進出しない。企業城下町として他都市進出は頑固反対している」
(00/6/26)



2002 年 6 月までに 4 度目の延期を表明した大王製紙は、2003 年 3 月正式に進出中止を表明した。10 月、お互いに控訴していた住民訴訟は和解成立したが、一方で秋田県に担保提供していた 55 億円の返還を求める大王製紙側と、工業用地造成と用水の整備に要した費用の一部約 80 億円を違約金として支払うよう秋田県側との新たな裁判が始まっていた。

今日、互いを訴えた訴訟は控訴審で和解金約 11 億円を大王製紙は秋田県に支払い、県は同社が進出の担保としていた約 55 億円を返すことで和解が成立。訴訟は決着した。

秋田湾開発構想の挫折で宙に浮いた玉川ダムの水を活用する延長上にある大プロジェクトは、用水確保のための玉川ダム堰堤かさ上げに伴う県の負担約 283 億円、総事業費約 130 億円掛かった建設が中断したまま利用の見通しが立たない第二工業用水、進出予定地の埋め立てに要した約 110 億円。実質秋田県の敗訴に終わった訴訟費用は約 1 億円を超すと聞いている。

県民に重くのしかかった先行投資型誘致企業の失敗のツケは、利益誘導型土建屋政治を長く続けた前佐々木県政が残したもう一つの負の財産である。これまた利益誘導型土建屋議員の多い秋田県議会のチェック機能が不在だったことの責任でもある。

3 期目の寺田知事 2005/4/17 (日)

今日投票が行われた知事選で、午後 8 時過ぎにはテレビで当確が出てきた。知事を四期以上は務めないと明言している多選禁止派寺田知事にとっては、三期目が最後の任期を意味している。

一期目は県庁の食糧費問題、県木住問題、県畜産開発公社問題、今も続く能代産廃問題など「負の遺産」処理に奔走、忙殺された。二期目は国際教養大学の開学に難儀し、市町村合併は、批判を受けながらも親として子の面倒を見る想いで力を注いだであろう。

二期目後半の寺田知事への「風当たり」は強かった。トップダウン、秋田空港ターミナルビル交際費問題。選挙に勝って「みそぎ」として幕を引かないでほしい。

地域経済の不振をどう、立て直すのか。行財政改革も必要だが、農業、教育、少子・高齢化問題、福祉など、県政にはかつてないさまざまな難題が山積している。県民が覇気を持って明日を望めるよう、リーダーのビジョンを見せてほしい。

ドライブ 2005/4/16 (土)

友人を訪ねて常盤大柄まで出かけた。
お天気快晴、穏やかに暖かだったが、大柄にはまだ雪が残っていた。

子供たちに水やおやつを持たされた。いつの間にやら、ばあさんも車の中に乗せられていた。「あれえ、ここ天理教のところだがあ」と、窓からの景色が眼に入っている。



ついでに二ツ井を回って浅内をグルーと回って。家にたどり着いたら部屋の掃除が出来ていて空気の入替えが気持ちよく。ぐっすりと昼寝している。

健康ライフ 口腔ケア 2005/4/15 (金)

最近の母の口臭がひどかった。母は自分一人で歯磨きはできないが、そこへ準備してあげると 1 歳になるひ孫の陽くん並みに歯磨きは出来る。その母の口臭が介護する者や周囲にショックを受けるほどに不快感があった。消化器系に原因があるのかなと思ってみたが快調快便で健康状態は良好である。



つぎに、虫歯かなと歯科医の往診を依頼した。自分の歯がまだ 7 本健在で特に問題はないが、自分一人で歯磨きはできない要介護高齢者の口内は細菌の繁殖が口臭を招き、介護者や周囲に与える不快感はあるという。歯垢をとって貰って、うがい薬でうがいする。

おかげで、口の中の清潔度が向上しただけでなく、要介護高齢者の母の精神面により影響を与えた。

わたしは考えた。健康な人は、毎日、自分で歯を磨く。しかし、高齢の要介護者は自分でやれない。口の中は食べ物のかすがたまって汚れたまま。でも、本人は汚れていることに気付いていない。寝たきりでなくても、自分で歯磨きが出来ない。そんな高齢者は何人に一人？ になるだろうか。

病気に対する抵抗力の低下した者が、口内で繁殖した細菌をごくりと飲み込んだとき、体内臓はどうなるんだろうか。もしかして肺炎を起こしたりして？ ってことにはならな

いのかなと、考えただけで「もうショック」

要介護の高齢者のための口腔ケアは、大事です。歯科医師・歯科衛生士の訪問診療を受けるなどしてください。おすすめします。

ヒアリング 2005/4/12（火）

私たち住民団体は今日、午後 1 時 30 分から浅内自治会館において能代産業廃棄物処理センターに係る処分場№ 1・2 に係る不適正処理に関する情報について、地元住民による目視、廃棄物収集運搬業者、及び同事業所に勤務経験のある者から、あるいは匿名による情報提供を基に秋田県環境整備課のヒアリングの場に臨んだ。

もちろん県会議員中田潤にダビングされ流出したビデオテープも参考意見の中に入っているが、当然個人情報の範疇と心得られるものの情報は出さなかった。が、それぞれ確証ある格調高い話し合いが出来た。

選挙戦 2005/4/9（土）

どうも私はパフォーマンスがうまくできない。選挙カーに乗るのは自分の選挙も苦手だ。そういうわけで今日は、昼食を浅内の浜寿司でとるというので、そこでお茶汲みをお手伝いさせてもらった。

入ってくるなり「あれえ！この人 だあれだったけ？ もしかしたら僕の一番苦手の人じゃないか？」「スケ（典城）様、寒堤の水で沸かしたお茶をどうぞ」「ぎゃー」と、30 分そこそこの休憩で午後からの遊説に出かけた。

義憤 2005/4/6（水）

電気屋さんは「裁判に訴えて争う私を支援しない」と断言して帰った。まだ、訴状は届いていないが、ホームページで[論拠は証拠から](#) 2005/3/24 を読んで早速私の友人に電話があったようだ。

「神に誓っても中田議員にテープを渡していない証拠に、中田議員がビデオテープをダビングしたのは『〇× 電気屋さん』です。私ではありません。信じてください！」と。とうとう、胸を打たれた私の友人は「電気屋さんが涙ながらに訴える姿に嘘はない... と思うのです。」と、私が間違いを認めて謝った方がいいのではないかと、ご忠告に来てくれた。わたしが柔軟な態度をとらないと周囲のいざこざはつづくことを懸念していた。

もし、私が間違っていると証明されたらゴメンナサイをします。しかし、私にも自分流信念を貫いてよい時がある。へたに周りに合わせるその理由もなかった。

ここに一つだけ検証可能ながある。

私だけが持っている世界でたった一つの記録テープは、命がけで撮影したものばかりである。マスターテープもダビングしてもらったテープもほらご覧のとおり私の机の中に厳然と存在している。私にはまったく面識がない『〇× 電気屋さん』に、どうしてどうや

ってテープが渡り、中田兄弟の手に渡ったというのですか？

能代産廃問題を取り上げるために、そっとテープを「見せるだけ、見るだけ」なら、まだ許せる範囲にある。けれど、今回の世界でたった一つの私の記録テープを、公職にある中田兄弟が人を騙し無断で目的外にテープをダビングして使用し、流出したことに問題がある。

テープを渡した人にも個人情報にかかわる重大な間違いがある。が、それを中田兄弟が無断勝手にダビングして、濡れ手にテープを掴んだ拳句に我が物に行使すること自体、世の中にある「やっていいことと悪いこと」の倫理の道に反しているといいたいのだ。

「所詮、中田満・潤兄弟のやったことはごくつづし 2 代目のやることだから。生半可な知識を振り回す議員の端くれのやることさ」と、嘲ってるだけでは中田兄弟に対する私の義憤はおさまらない。

牧草地が砂の採取場となって 2005/4/6 (水)



黒岡・茨嶋山の田、畑、牧草地は砂採取場となって浅内大沼から、国道 7 号線沿線丸見えになっている。開発がもたらす浅内大沼に与える影響をここに住んでいる住民が心配して、こう言っていた。「先が見えなくなるくらい砂が飛んできく。木がなくなって沼にも水がたまらなくなるのではないか。急傾斜になってしまった土地の形成が崩れるのではないか」と。暮らしむきの変化を心配していた。

介護の実態・家族会議 2005/4/3 (日)

母の介護をめぐって家族で話し合いをした。正直言って泣いて大声出して喧々諤々怒鳴りあいになった。ベッドをまな板に「さあ、どう料理するか」と言っているようなものだった。

健康上どこが悪いところはなかったが、昨年 7 月から同居した母は 10 月半ば、左肩脱臼骨折などに遭って寝込んでしまった。10 数年前から言葉は乱暴に、つめで引っかく、髪を掴んで、ものを投げつける、もちろん大小便は垂れ流しても入浴は拒否する。昼夜の逆転。日増しにひどくなるばかりであった。

私たちは、痴呆ではない。これもみんな母のわがままな延長線にあるとあって、むしろ医者に診せることが恥ずかしいと。まちがっていた。

介護を受けるために思い切って精神科で診てもらった。要介護 1 ぐらいにでもなるだろうかと思っていたら、いきなり要介護 3 と来た。母の隣に寝て声をこらして一晩泣いた。時折ころあいを見て、母の調子の按配をうかがいながら、私は、母のやりたい放題を許してあまり構わないことにした。子供たちも、その心得が出来てきて、うまくお風呂場まで誘い出すことに成功しては、ばあさんをほめてあげて喜んだ。

2 月の末頃だったろうか。

小さいひ孫の手をとるようになって母に変化が見えてきた。童謡唱歌や軍歌を歌うようになり、手拍子を添えると笑う。娘のわたしの名前は時々思い出す程度だが、早くに亡くなった自分の姉妹の命日を数えて名前を言うようになった。どぶろく作りの話もやまない。医者は「家族の対応がよかったのですね」と言ってくれた。私は仕事の関係で日中の世話はあまり出来なかった。あらためて私は、子供たちにくちから感謝した。



ところが兄は、「あと何年生きるかわからないばあさんをここにおいては、子供たちの就職探しの妨げになるからばばを浅内につれて帰る。自分が面倒見切れなくなれば施設に入れるか、姉にみてもらうかどっちかにする」と言い出した。姉も親の面倒を見るのが長女の責務とばかりに気負っていた。

私は、「母は、自分が『原田ツエ』であることがわかっている。尊重してあげたい。せっかく半年かかって落ち着いたのだからこのまま、ここにおいて、孫やひ孫に声をかけられて生活するのがいいのでないか。母が、暮らしやすいところ、望むところ、母の気持ちを大切にしたい」と主張した。

就職探しは本人の責任の問題で、介護しているから就職が出来ないことではない。「こじつけてつれて帰るのではなく、もっと気持ちよく私たちが送り出せる方法はなかったのか。お天気もよくなって、あたたくなって、浅内でも暮らせるようになったとか。」と、言った。

ありがたいと口で礼は言ってるけれど、顔が怒っていて険しい話し振りだ。何か私のほうに「子供たちの就職問題ではない、ここに預かっては置けない原因があるのか」と聞いた。話は、あれもこれも出てきて喧々諤々。支離滅裂となった。

母は、ここに居たいと言ったが「それが痴呆のいうことだから」と、言ってとりあわなかった。

「5 月 1 日、デサービスに乗せて、ばばを浅内につれていく。えべっ」
兄姉妹といえども多勢に無勢、結局「原田ツエ」さんのことを考えたのではなく、「自分たちの都合」を、決めてしまった。

親の介護をめぐって、どこでもけんかの類はがあると友人は慰めてくれるが。

変わる暮らし 2005/4/1 (金)

何かわくわく気分になって新年度が始まる 4 月 1 日。だといいいのだが、暮らしをめぐるさまざまな制度が変わる。

まず第一に、新市町村合併特例法である。全国市町村の数は 3 月末の 2521 から 2395 になる。能代山本も特例法期限にやっところさ滑り込んで県への申請が終えた。来春には 8 市町村の地図は 4 市町になる運びとなったのである。

また、自家用車に係る自賠責保険は 2 年契約で 2150 円上がり 2 万 9780 円に引き上げられ、国民年金保険は月額 280 円上がり 1 万 3580 円に国民負担は一段と増す。

夫が勤めをして収入があるのに同じ家事をやっている妻が保険料を払わずにすむのはどうしてか！と、東京がえり家事手伝い無職の娘は保険料の支払いに悲鳴を上げている。

一方で、個人情報保護法では、個人情報を大量に扱う民間業者は利用目的の通知や適正な取得などが義務付けられ、第三者への無断提供や目的外使用を制限される。

そして、任期満了に伴う秋田県知事選は、昨日 31 日に告示されて、現職に 3 新人が挑む選挙戦が始まっている。

